

# 内 容

## 1. 温暖化で危惧される自然災害

## 2. 気候変動影響や適応に関する研究内容

- ① 文部科学省 革新プログラム、創生プログラム
- ② 通常の極端現象への影響評価
- ③ 最大クラス台風による影響評価
- ④ 適応に向けた研究や省庁との連携の拡大・深化

## 3. 今後の重要事項

# 第22回土木学会地球環境シンポジウム

## 土木分野における適応に向けた気候変動研究の将来展望

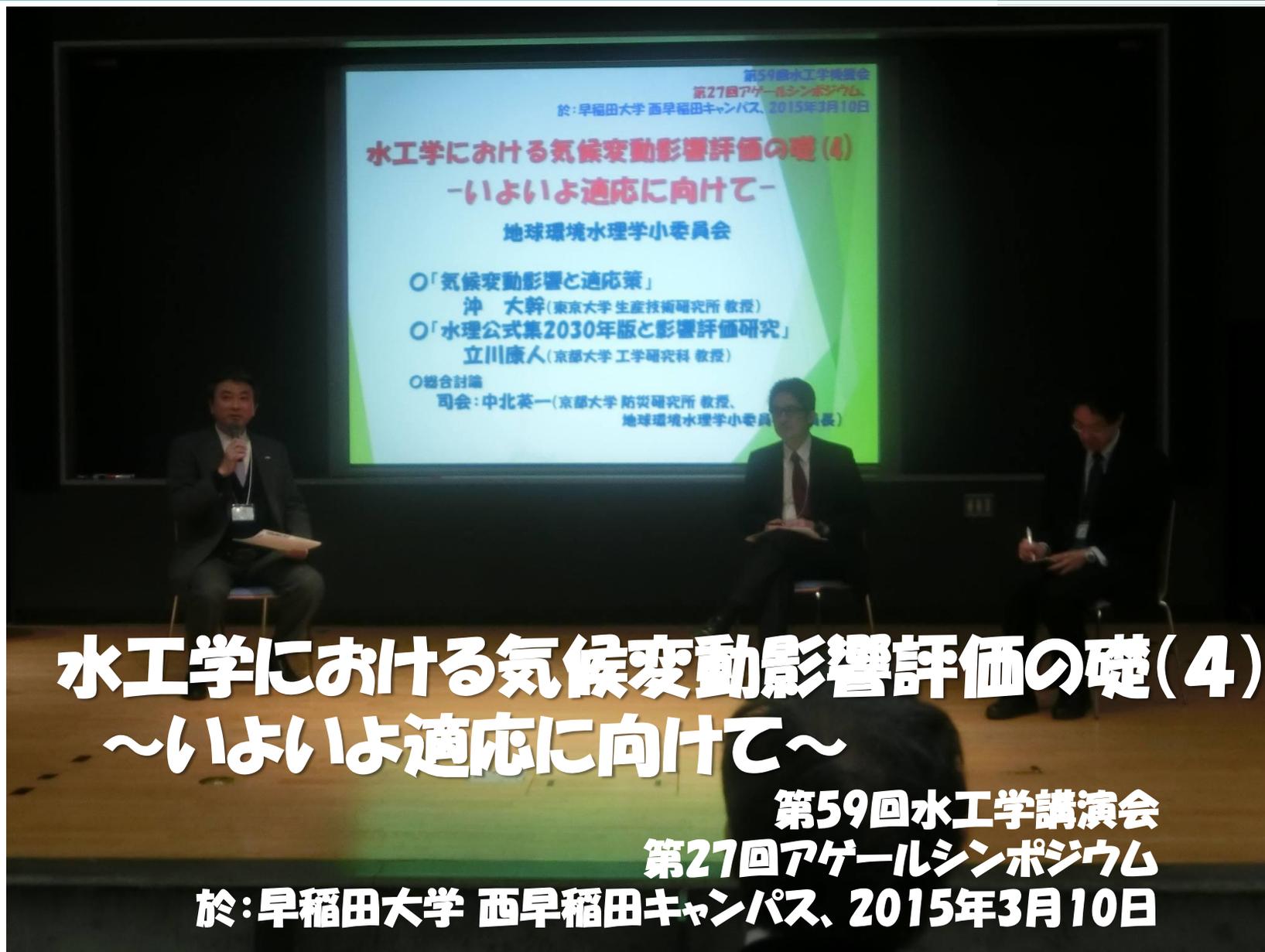


2014年9月4日  
中央大学駿河台記念館



文部科学省関係  
創生・RECCA・  
DIAS  
環境省関係  
S-8

# 第59回土木学会水工学講演会アゲールシンポ



## 水工学における気候変動影響評価の礎(4) ~いよいよ適応に向けて~

第59回水工学講演会  
第27回アゲールシンポジウム

於:早稲田大学 西早稲田キャンパス、2015年3月10日

# 水災害分野における気候変動による 影響と適応に関するシンポジウム



**2015年5月29日 国立オリンピック記念青少年総合センター**  
**主催 文部科学省 気候変動リスク情報創生プログラム / 国土交通省 水管理国土保全局**  
**後援 土木学会 水工学委員会 / 地球環境委員会**

# 創生での成果(見込みも含む)

- **設計外力将来変化の、より精度の高い確率分布推定**
  - 環境省や特別推進費によるアンサンブル数の飛躍的な増大。創生の範疇としては望外のよろこび！
- **将来の最大クラスハザードの推定手法の創出**
  - 疑似温暖化+コースの仮想シフト
  - 複合災害の評価
  - 経済評価への道
- **よい、適応策に向けた取り組み**
  - 不確実性の高い中での意志決定手法の創出
  - 国交省など実務省庁等との深い議論、施策へのコミット
  - 国交省答申で最大クラスが組み込まれ、推定する手引きで「利用可能な地域では最新の研究成果を用いて良い」と盛り込まれた。
  - 紀南河川国道事務所では、疑似温暖化伊勢湾台風を、タイムラインをこれから構築するための重要な情報として利用開始。

# 土木学会水工学委員会 気候変動による影響への適応研究 に向けたワーキングの立ち上げ

- タイトル:「気候変動による影響への適応に向けた研究・活動の推進」
- 目的:これまで評価項目とされていなかった指標の発掘, これからの温暖化研究で意識すべきものの発見のため, 水工学全体で気候変動研究に取り組む.
- 参加者:水文部会(1名), 環境水理部会(4名), 河川部会(4名), その他関係者(数名)
- 日時:平成27年12月2日午後5時30分から
- 場所:防災研究所 5階のセミナー室 E-517号室

そして、  
グローバル気候変動適応研究推進小委員会の成立

# 土木学会 年次講演会 共通セッション

- 共通セッション:「気候変動による影響への適応」
- 目的:気候変動の影響は近年の豪雨災害の増加により顕著化しており防災対策の必要性は疑う余地がないばかりでなく,利水や環境といった側面でも気候変動への適応が急務となっている.本セッションは,気候変動や地球規模での環境変動をキーワードに,水圏における治水,利水,環境といった様々な視点から取り組む影響評価や適応研究について幅広く議論し,より横断的な研究の推進,連携の活性化,新たなテーマの発掘を目指す.
- 予想される応募部門:第2部門,第4部門,第7部門  
(水系) (土系) (計画系)

# 適応に向けての大切なこと

1. 対象とする河川流量などの設計値を見直す
2. 気候変動下での最悪ケース群を想定する
3. 高い不確実性の中で後悔しない意志決定
4. 普段の「しんどい管理」の「じわじわ」とした高頻度化、これが今後、現場のしんどさ・疲労増大に結びついてリアルタイム防御システムの安全度を低下させる、そのようなことがないように対応して行く
5. 普段の場の変化への適応